

「輪」になって踊り、交わる 体験交流ホール —顔の見える交流ができる空間づくりへのチャレンジ—

北海道開発局 営繕部 営繕整備課 ○堀 純平
高森 宏視
山岡 栄一

国立民族共生公園 体験交流ホールは、アイヌの歴史・文化を国内外から訪れる来場者に幅広く理解してもらうために「体験・交流」をコンセプトとして整備された、アイヌの伝統芸能を上演するホールである。演舞者と観客が「顔の見える交流」をできるよう、設計においてはホールの空間デザイン・舞台音響設計・舞台照明映像設備について検討を行った。本稿ではホール設計における課題と検討した内容について報告する。

キーワード：アイヌ文化、ホール、伝統芸能、舞台設備

1. はじめに

(1) ウポポイ(民族共生象徴空間)整備の背景と目的

アイヌ文化の振興や普及啓発は、伝承者の減少、アイヌ語や伝統工芸など存立の危機にある分野の存在、また、未だなおアイヌの歴史や文化等について十分な理解が得られていないといった課題に直面している。

このような背景を踏まえ、平成21年7月「アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会」において、ウポポイはアイヌの人々が先住民族であるとの認識に基づきアイヌ政策の「扇の要」として提言された。アイヌ文化を振興するための空間や施設であるだけでなく、我が国の貴重な文化でありながら存立の危機にあるアイヌ文化の復興・創造等の拠点として、また、将来に向けて先住民族

の尊厳を尊重し、差別のない多様で豊かな文化を持つ活力ある社会を築いていくための象徴として、ウポポイは北海道白老町のポロト湖畔に整備された。

(2) 国立民族共生公園の概要(図-1参照)

国立アイヌ民族博物館と並んで、ウポポイの中核区域となる国立民族共生公園は、自然の中で培われてきた先住民族アイヌの文化を五感で感じることができる体験型フィールドミュージアムとして整備された。

園内にはアイヌ古式舞踊の上演や伝統芸能体験ができる体験交流ホールをはじめ、アイヌ語、伝統的生業等を体験できる体験学習館、チセ群等の再現によりアイヌの伝統的生活空間を体感できる伝統的コタン、来園者が工芸の製作を体験できる工房などが整備され、アイヌ文化が息づく憩いの場となっている。



図-1 ウポポイ(民族共生象徴空間)園内全景

2. 体験交流ホールの概要

(1) 施設概要

所在地	北海道白老郡白老町
企画・監修	国土交通省北海道開発局営繕部
設計	アトリエブシク+総合設備計画
敷地面積	18,667.34 m ²
建築面積	1,622.85 m ²
延べ床面積	1,648.98 m ²
階数	地上2階
構造	鉄骨造
工期(工事)	2018年7月～2019年12月

(2) 設計コンセプト

伝統的コタンやポロト周辺の豊かな自然環境を活かしながら、国内外から訪れる多様な来園者にアイヌ語、舞踊・音楽・口承文芸等のアイヌ文化を紹介すると共に幅広く体験・交流を行うこと。また、新たなアイヌ文化の創造発展に寄与するホールとなること。これらの整備方針を踏まえ、以下の2点を設計コンセプトとした。

a) アイヌ文化の理解と交流を促す空間整備(図-2参照)

- ・公演を通じて演舞者と観客が「顔の見える交流」ができ、一体感を感じられるホール
- ・ステージにコタン及びポロト湖畔を望む借景窓

b) 周辺環境との調和(図-3参照)

- ・ポロト湖や山並みと呼应する柔らかなシルエット
- ・緩やかな曲線からなる公園計画に馴染むデザイン



図-2 ホール内部 イメージ図



図-3 ホール配置 イメージ図

3. 設計コンセプト等実現への検討内容

(1) 空間デザイン

a) アイヌ文化の理解と交流を促す空間整備について

内部はアイヌの古式舞踊である「輪踊り」が映える円形ステージと、それを囲う客席で構成し、さらに、観客と演舞者の一体感あふれる客席計画とするため、観客をステージに可能な限り近づけつつ、ステージと客席は段差のない平場で連続させた。内部空間全体としても「輪」のかたちをモチーフとし、ここに輪になって交流する場をイメージしている。(図-4, 5, 6参照)

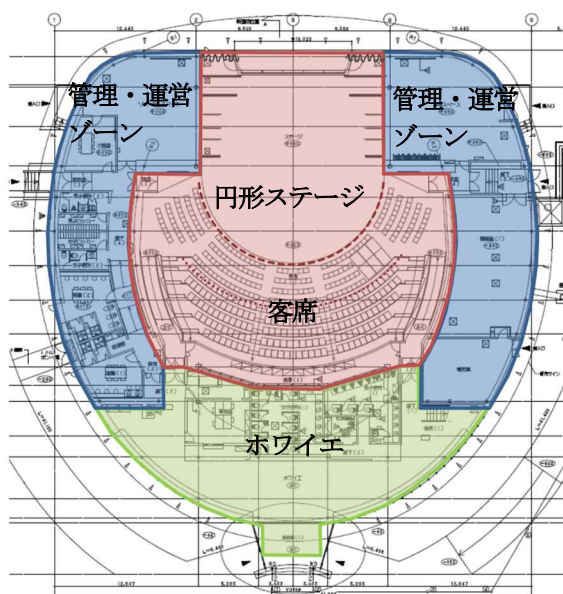


図-4 1階平面図

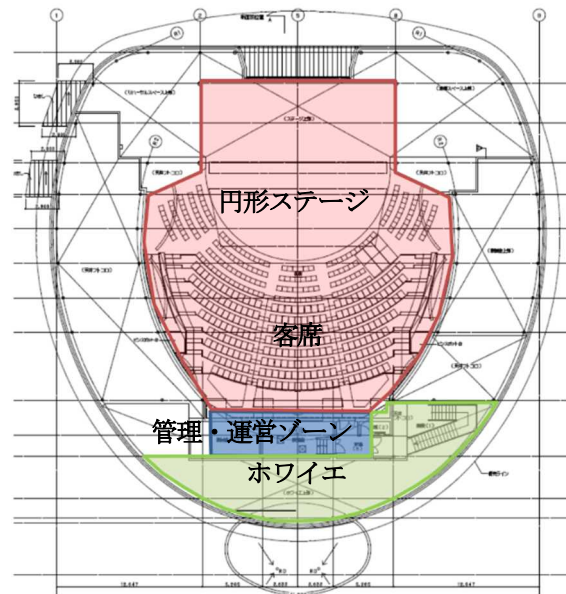


図-5 2階平面図

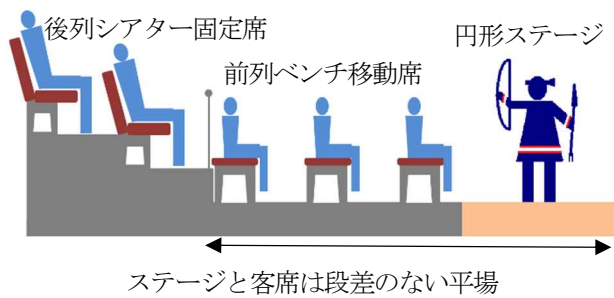


図-6 客席計画

また、借景窓よりポロト湖畔及び対岸の伝統的コタンを背景としてステージに取り込むことで、前景のステージと背景となる借景とを一体化させ、より臨場感ある空間とした。内部のステージ、客席は伝統的コタンに向かう「借景軸」を中心にシンメトリーに構成し、伝統的コタンに焦点を合わせるように階段状に客席を配置した。(図-7,8参照)できるだけ多くの客席からコタンを望むことができるよう、建物全体の平面形状を四角形・円形・半楕円形の3種類で検討し、最も多くの客席がコタンを望むことができる半楕円形をベースに設計を進めた。(図-9参照)

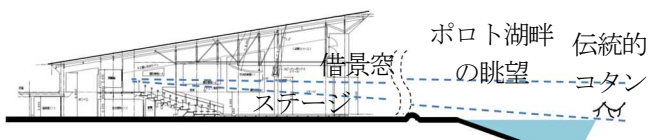
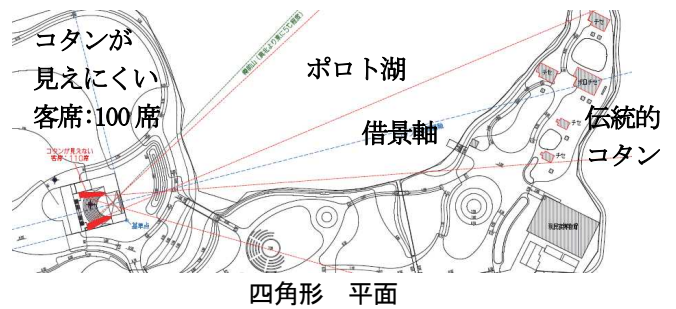


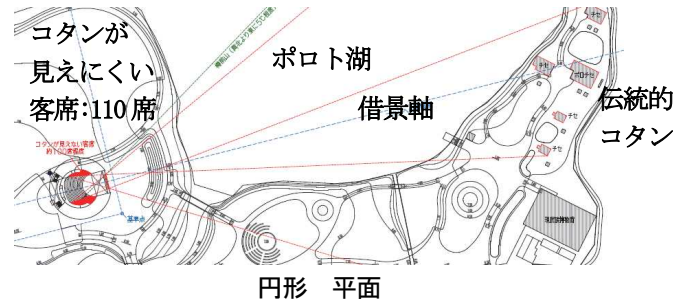
図-7 断面図



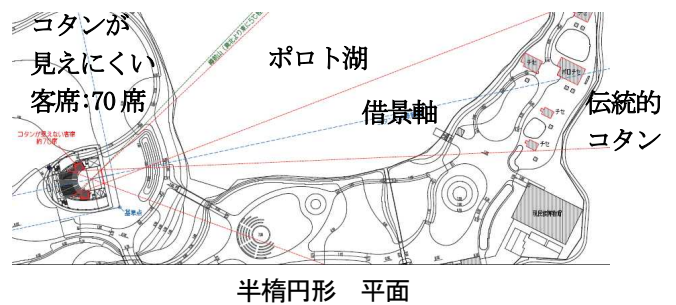
図-8 借景窓



四角形 平面



円形 平面



半楕円形 平面

図-9 配置検討図

b) 周辺環境との調和について

敷地であるポロト湖南端のほとりは、東西の山の稜線と国立アイヌ民族博物館が連続してつくる小高いボリュームに囲われた平坦で見通しの良い場所となっている。自然のままの形状のポロト湖、それと歩調を合わせた緩やかな曲線からなる公園計画との調和を目指した。建物形状としては、直線を用いず、曲線で構成されたデザインで、背後の山並みと柔らかいポロト湖畔の風景や園路に馴染むシルエットとした。(図-10参照)



図-10 完成写真(外観・周辺環境)

曲線で建物を構成すると複雑な構造となる傾向にあるが、屋根は同曲率の梁が連続する大屋根とすることで単純化した。また、外観はポルト湖面と一体になって自然光を素直に反射するシルバーの屋根と外壁とした。

(2) 舞台音響設計

a) 舞台音響設計の課題

開業に向けて運営団体で演出を具体的に検討していく中で、スピーカーによる音演出だけではなく、アイヌ古式舞踊にある足踏みや、剣を交わす「生音」を生かした演出への対応が必要となった。生音は発生源がステージ上の1カ所となり、音の発生後、壁や天井への反射を繰り返す。円形の建物では、より反射音が集中し聞き取りづらくなる音響障害が生じるため、それを解消することが課題となった。

b) 舞台音響設計の検討内容

反射音を拡散し、重ならないようにするため反射板の設置を検討した。音響解析によりシュミレーションを重ね、最適な反射板配置を計画した。(図-11, 12参照) 反射板が無いと音響障害が発生し、反射板があると反射音を拡散し、音響障害を解消できることがわかる。(図-11参照) 反射板を設置したことで、明瞭で迫力ある「生音」をホール全体に届けることができた。

(3) 舞台照明映像設備

a) 舞台照明映像設備の課題

さらに多くの来場者を迎え入れるために、演出の専門家によるプログラムの検討を進めた結果、最新テクノロ



図-12 反射板(壁・天井)

ジーを導入した舞台照明映像設備による演出が必要となった。照明設備、映像設備それぞれについて、必要となった設備を以下に示す。

照明設備

- ・LED舞台照明
- ・照明のプログラム制御

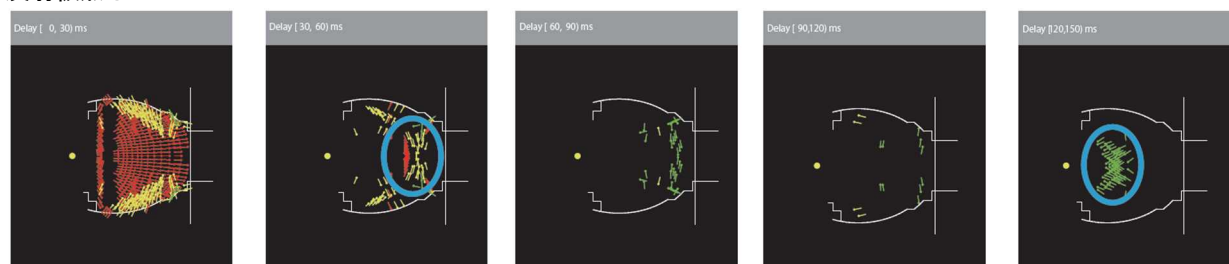
映像設備

- ・プロジェクションマッピング用プロジェクター
- ・プロジェクターを複数設置できる専用ボタン
- ・投影するスクリーン、幕、床材

b) 舞台照明映像設備の検討内容

プロジェクションマッピングでは、映像を袖幕、スクリーン、床材と切れ目なく映し出す必要があることから、床での見え方、反射光の検討を行った。反射光によって床と壁の色が混ざらないようにする必要があったため、複数の異なる床材(樹種、色合い、仕上げ)で映写テストによる検討を行った。(図-13, 14参照) 結果、つやのない淡色の床材が反射が少なく適していることが分かり採用した。

反射板無し



反射板有り



凡例) ○ : 音響障害 ● : 発生源 → : 発生音 → : 1回目反射音 → : 2回目反射音

図-11 音響解析シュミレーション



図-13 検討に使用した床材



図-14 床材の発色と反射光のテスト

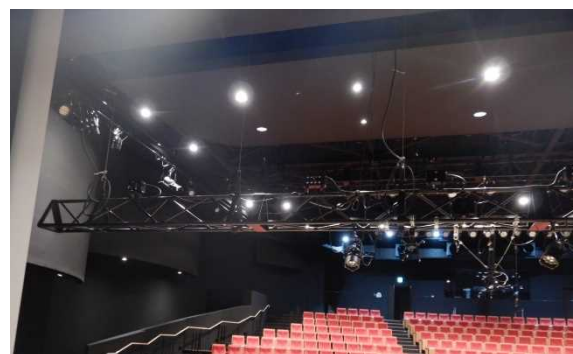


図-16 トラス型バトン



図-17 プログラム上演の様子

また、設備配置に合わせて、舞台上のLED舞台照明用バトン及びプロジェクター専用バトンを配置した。(図-15, 16参照)プロジェクターは個々に角度を調整して固定する必要があるため、複数の支点から吊ることができる専用のトラス型バトンを採用している。(図-16参照)

4. あとがき

本設計においては、さまざまな検討を重ねた結果、設計コンセプトにある「演舞者と観客の顔の見える交流」や「ポロト湖畔を望む借景窓」といった伝統や自然を生かした要素と、プロジェクションマッピングをはじめとした最新技術を生かした要素を融合した、唯一無二のホールを実現することができた。(図-17参照)

なお、完成後のアンケートにおいては、借景窓からの景色の美しさや客席からの演舞の見やすさについて、非常に高い評価を得ている。

現在ウポポイでは年間100万人の来場者を目標とし、魅力の充実強化を図っているところである。四季折々に変わる園内の表情も魅力的であるので、行ったことがない方はもちろん、一度行った方もぜひまた足を運び、アイヌ文化に触れ、理解を深めてほしいと願う。

謝辞：本論文の作成にあたり、情報提供をいただいた各団体の皆様に感謝の意を表します。

参考文献(図版提供元等)

- 1) アトリエブンク+総合設備計画：体験交流ホール基本設計書
- 2) 公共財団法人アイヌ民族文化財団：ウポポイ(民族共生象徴空間)ウェブサイト (<https://www.ainu-upopoy.jp>)

